

第 392 回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《 プログラム・抄録 》

日 時：令和元年 12 月 14 日（土）午後 3 時 00 分
会 場：新潟グランドホテル 5 階 『 波光の間 』
新潟市中央区上大川前通 3 ノ町 025-228-6111

次回 第 393 回新潟地方会予告
日時：令和 2 年 3 月 7 日（土）午後 2 時
会場：未定
演題申込期限：令和 2 年 2 月 14 日（金）

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通 1 の 757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長 富田 善彦

1. Renal-adrenal fusion と考えられた腎内副腎腺腫の1例

新潟県立中央病院 泌尿器科
松本華奈、山崎裕幸、水澤隆樹、片桐明善

症例は75歳男性。肺癌の精査目的のCTで右腎腫瘍を指摘され、当科を初診した。腫瘍は径18mmで右腎上極腹側に位置しており、右腎部分切除術を行った。術中黄褐色調の腫瘍を認めたが副腎との境界は不明瞭であり、副腎を合併切除した。病理診断の結果、副腎偶発腫であり、隣接する腎に腫瘍性変化は認めなかった。術前に腎腫瘍と診断した副腎腺腫の1例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

2. 浸潤膀胱癌に対する Pembrolizumab 治療後に再増悪した症例の病理組織学的検討

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、病理診断科²⁾、放射線診断科³⁾、
長谷川素¹⁾、長谷川剛²⁾、池田洋平³⁾、原 昇¹⁾、西山勉¹⁾

83歳男性の浸潤膀胱癌に対して、GC療法1コース後 Pembrolizumab 療法を行い、良好に反応し、CT上ほぼ消失した。その後再増悪した。治療前の病理組織はUC, G2>3, high grade(CK5/6(-), CK20(+), GATA3(+))の Luminal type), with squamous differentiation (CK5/6(+), CK20(-), GATA3(-))の Basal type)であったが、再増悪後は比較的小型の細胞からなる small cell carcinoma 様の UC (CK5/6(-), CK20(-), GATA3(+))の double negative type)となっていた。周囲に随伴癌粘膜もあったため、BCG膀胱内注入療法を行ったが、原発部位が再増大してきた。本人家族の意向で、その後無治療経過観察している。

3. 限局性膀胱アミロイドーシスの一例

厚生連長岡中央総合病院 泌尿器科¹⁾、長岡赤十字病院 泌尿器科²⁾
中山亮¹⁾、晝間楓²⁾、信下智広¹⁾、高橋英祐¹⁾、照沼正博¹⁾

症例は76歳の男性。肉眼的血尿を主訴に当科初診した。エコーで残尿多量、膀胱鏡で頸部～三角部に広がる不整粘膜を認めた。尿細胞診は鑑別困難であった。経尿道的膀胱腫瘍切除術を施行し、アミロイドーシスの病理組織学的診断、全身精査では他臓器に病変を認めず、限局性膀胱アミロイドーシスの診断に至った。術後、自排尿と血尿の改善を認めている。限局性膀胱アミロイドーシスは全国で約200例と稀な疾患であり、少しの文献的考察を加えて報告する。

4. 経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)後に仮性動脈瘤を呈した1例

長岡赤十字病院 泌尿器科¹⁾、放射線科²⁾
晝間楓¹⁾、鈴木一也¹⁾、米山健志¹⁾、高木聡²⁾

症例は71歳男性。尿閉を伴う前立腺肥大症に対し、7月16日にHoLEPを施行した。核出重量は104gであった。その後、8月7日から9月30日までの期間に計7回の膀胱タンポナーデを繰り返し、計3回の経尿道的止血術を施行した。9月30日にダイナミックCTで仮性動脈瘤を同定し、10月1日に動脈塞栓術を行った。塞栓後は現在に至るまで良好な出血コントロールを得られている。

5. 腎細胞癌に対する新規免疫療法後の局所再発に救済腎摘出術を施行し長期CRが得られている1例

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学・分子腫瘍学

結城恵里、山名一寿、黒木大生、安楽力、小原健司、富田善彦

症例は75歳の男性で、右腎細胞癌 cT3bN2M1、IMDC 3点とpoor risk群であった。腫瘍生検にて淡明細胞癌を示し、ニボルマブとイピリムマブの併用療法を施行した。最良効果判定ではほぼCRに近いPRが得られたが、腎腫瘍局所の一部が徐々に増大し、治療開始から33ヶ月目にPD判定となった。二次治療として救済腎摘出術を施行し、病理結果は淡明細胞癌であった。術後無治療で経過観察中であるが、20ヶ月の間(初回治療から54ヶ月)再発なく経過している。

6. ESWLにて碎石し得た小児尿管結石の一例

新潟県立新発田病院 泌尿器科¹⁾、小児科²⁾小松集一¹⁾、宮島憲生¹⁾、波田野彰彦¹⁾、高橋雄一²⁾、佐藤英利²⁾、榊原清一²⁾、長谷川聡²⁾、松永雅道²⁾

【はじめに】小児尿路結石は比較的まれな疾患であるが、近年増加傾向にある。【症例】7歳、男児。【経過】腹痛、嘔吐にて当院小児科受診。X-pで7mm大の左尿管結石(U1)を認めた。入院後、結石性腎盂腎炎を発症し抗生剤使用するも解熱せず、尿管ステント留置を要した。後日、鎮静下にESWLを行い排石が得られた。結石分析はカルシウム結石であった。【考察】小児のESWLは年齢や結石の位置・大きさから施行可能と判断されれば侵襲も少なく有効な治療と考えられる。

7. 電動工具による陰囊精巣外傷の一例

新潟県立吉田病院泌尿器科

若月俊二

20XX年Y月に外陰部の外傷ありと、救急搬送された80歳台男性。陰囊付近を水平に切創があり、片側の精巣は創外に脱出していた。全身麻酔下にデブリードマンと結局、両側精巣を切除を行った。創感染を起こすことなく、経過した。症例の供覧と文献的考察を行う。

8. 当院での性同一性障害の治療の経験

会津クリニック

玉木信

性同一性障害とは、「生物学的性別(sex)と性別に対する自己意識あるいは自己認知(gender identity)が一致しない状態であるとされる。当院の位置する会津地方では、これを治療する施設が当院以外になかった状況の中、遠方での治療継続が困難な患者のニーズにこたえるため、2007年からホルモン療法のみ実施している。当院で治療対象とする患者の条件は、専門医院での確定診断を受け、治療方針を決定されたことを原則としているが、その経験を報告する。

新潟泌尿器科同窓会総会

16：40～17：10

[会場 5階 波光の間]

《休憩 17：10～17：30》

17：30 より研究会が予定されています。

新潟地方会・同窓会合同懇親会を研究会終了後5階「常盤の間」で行います。

Niigata Urology Seminar 2019

日時：2019年12月14日(土)17:30～18:40

会場：新潟グランドホテル 5階 『波光の間』

住所：新潟市中央区上大川前通3ノ町 TEL 025-228-6111

◆製品紹介 17:30～17:40

『前立腺癌治療剤 イクスタンジ錠 最近の話題』

アステラス製薬株行会社

◆Expert Lecture 17:40～18:40

座長

新潟大学 副学長

新潟大学医歯学総合病院長 (泌尿器科教授) 富田 善彦 先生

『 前立腺癌に対する治療
～ 我々の治療選択は正しいのか? ～ 』

演者

岐阜大学大学院医学系研究科 泌尿器科学 教授
古家 琢也 先生

主催：アステラス製薬株式会社